



碧き島の宿

熊野別邸

中の島

お知らせ

2019年4月19日

株式会社中の島

約50年続いた屋号を改名し、高級和風リゾートに生まれ変わる

南紀勝浦温泉「ホテル中の島」から「^{あお}碧き島の宿 熊野別邸 中の島」へ

4月19日（金）新館オープン

南海電鉄グループの株式会社中の島（本社：和歌山県東牟婁郡那智勝浦町、社長：野口滋己）が経営する「ホテル中の島」（所在地：同上）は、約50年愛された屋号（ブランド名）を改名し、2019年4月19日に「碧き島の宿 熊野別邸 中の島」として、生まれ変わります。それに伴い、同日客室棟「凧（なぎ）の抄（しょう）」をオープンし、高級和風リゾートとして更なるグレードアップを図ります。



同ホテルは、JR紀勢線紀伊勝浦駅近くの観光桟橋より専用客船で約5分の島（中ノ島）に立地、船でホテルの玄関に到着します。

以前は団体のお客様を中心にご来館いただいていましたが、旅行形態が団体から個人に変化していること、高級志向が高まっていること、開業から年数が経過して施設の老朽化が進んでいることなどから、今回の大規模転換に至りました。

これまで4つあった客室棟のうち、高級志向の「潮聞亭（ちょうもんてい）」を除く3棟（2017年11月末まで営業）を解体し、新たに客室棟「凧（なぎ）の抄（しょう）」をオープンします。

「凧の抄」は、鉄骨造3階建てで、客室全10室のバルコニーに露天風呂を備えていることが特徴です。鉄筋コンクリート造6階建ての「潮聞亭」（34室）や、温泉施設も一部改修し、リニューアルオープン致します。

日常を離れ、ゆっくり、贅沢な時間をお過ごしください。

別紙

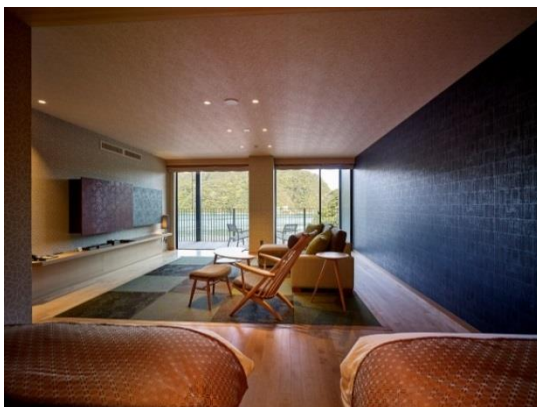
<「碧き島の宿 熊野別邸 中の島」の特徴>

- 勝浦湾に浮かぶ小島「中ノ島」そのものが周囲を海に囲まれた「他に類を見ない一島一旅館」であり、どこからでも眼前に美しい紺碧の海を眺めることができる
- 島内に6本の源泉を擁し、1日700トン、毎分486リットルの湧出量という豊富な湯量を誇る。露天風呂等、源泉掛け流しの天然温泉。
- 中ノ島をとりまく黒潮の海は、海の幸の宝庫。
新鮮な魚介類をふんだんに使った活魚料理は豪快そのもの。

<施設概要>

■客室棟「風の抄」^{なぎ しょう}（2019年4月19日新オープン）

- ・延床面積：1,225㎡
- ・構造規模：鉄骨造3階建
- ・客室数：10室 ※全客室バルコニーに露天風呂を完備
- ・価格帯：1泊2食付き30,000円～（2名1室1名様あたり）



※客室露天風呂は温泉ではありません。

ちょうもんてい

■ 客室棟「潮聞亭」

- ・延床面積：5,412㎡
- ・構造規模：鉄筋コンクリート造6階建
- ・客室数：34室
- ・価格帯：1泊2食付き23,000円～（2名1室1名様あたり）



■ 温泉施設

- ・大浴場2カ所、露天風呂3カ所（※男女入替制）
- ・貸切露天風呂2カ所



■ 料理



<アクセス>



電車の場合	天王寺	～	特急くろしお	～	紀伊勝浦	約 3 時間 30 分
	新大阪	～	特急くろしお	～	紀伊勝浦	約 3 時間 50 分
	京都	～	特急くろしお	～	紀伊勝浦	約 4 時間 20 分
	名古屋	～	特急ワイドビュー南紀	～	紀伊勝浦	約 3 時間 30 分
お車の場合	大阪～南紀田辺 IC	～	すさみ南 IC	經由	串本～勝浦	約 3 時間 30 分

<歴史>

中の島は、勝浦湾の入り口に位置しているため、明治の末頃までは帆船を相手に島の入り江で船宿が営まれていました。

昭和 10 年頃、島の所有者が木造 2 階建て 10 数室の旅館を建て、温泉もボーリングをおこなって温泉旅館を始めました。

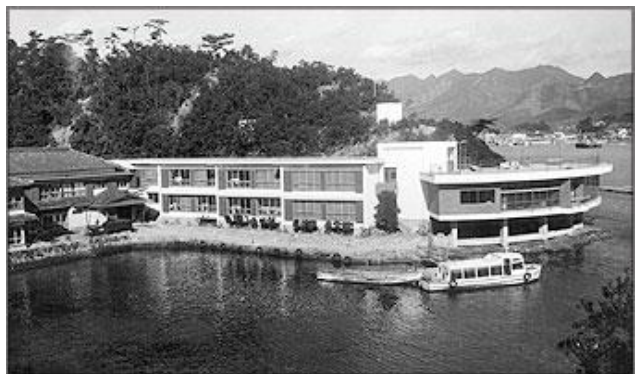
当時、島からは温泉は出ても真水が出なかったため、必要な水は町から船で島へ運んで営業したということです。

その後戦争中は、一時海軍に接収され旅館は閉鎖となりました。戦後営業を再開後も、この木造の建物は伊勢湾台風による被害などもありましたが、昭和 40 年の始めころまで客室・宴会場として使われておりました。

南海電鉄及び当社は、昭和 33 年に当時の島の所有者より全島を買い受け、中の島旅館の営業を継承し、その後ホテル中の島と改名し、昭和 34 年の紀勢線全線開通や昭和 44 年の国道 42 号線の拡幅・舗装完成による那智勝浦へのお客様の増加にあわせるように建物の規模を拡大していきました。



昭和 25 年頃の中の島旅館



昭和 36 年頃。木造二階の建物と 3 号館